

個人コレクションを  
NPO法人が継承しました。



「オホーツク鉄道歴史記念館」の開設をめざし

## 国鉄時代の車両7両の修復を！

私たちはオホーツクの開拓と近代化のスペクタクル、悲喜交々のドラマを伝え遺すために「オホーツク鉄道歴史記念館」の開設をめざしています。そのための最初のステップとして、

最も劣化の激しいスユ15、ヨ、  
ワフの修復資金を皆さんに募って  
います。 <https://readyfor.jp/projects/orhps1> から

目標額は  
2,000,000円

8月10日、クラウドファンディングがスタート！ 9月30日まで



今回修復をするスユ15(郵便護送車:写真左)、ヨ(車掌車:写真右上)、ワフ(有蓋緩急車:写真右下)



昭和 23 年の北見機関区(左)、常呂の鉄山(右上: ところ通信1989~1999より)、温根湯森林鉄道(右下)

オホーツクの鉄道は明治 4 4 年の鐵道院網走線の開通にはじまり、それに続く国鉄各線、7つの森林鉄道、更には鉾山軌道や植民軌道など 25 の鉄道軌道がオホーツク中を駆けめぐりました。鉄道や軌道は文字通りオホーツクの開拓と近代化の牽引車でした。そこに産業が起きオホーツクの町々が出来上がったのです。

原生林を伐り開いての鉄道建設には過酷な労働と疫病の発生が伴い、多くの苦難や悲劇が生まれました。しかしその困難の結果出来上がった鉄道は、産業や経済を牽引するだけではなく、人々の日々の生活にも深く係り、誇りとなりそして愛されたのでした。

私たちの地元北見市には二つの記念館があります。それはいずれもオホーツクの近代化の歴史を今に伝えるものです。一つはキリスト教の宣教師として社会や文化の近代化に腐心したピアソン夫妻の業績を伝える「ピアソン記念館」(北海道遺産)。もう一つは生産量世界一を誇り、地域の農業と経済に隆盛をもたらしたハッカ蒸留工場の事務所「ハッカ記念館」(近代化産業遺産)です。

この二つの記念館に対して、私たちがめざす「オホーツク鉄道歴史記念館」が伝えるものは、鉄道・軌道を動かし、森林を伐採し、鉾山を掘り進んだ人々の労働のスペクタクル。そしてこれらの人々に係り、あるいはこれを取り囲んだ人々の悲喜交々のドラマです。私たちは、それぞれに視点の違う3つの記念館が揃うことによってこそ、オホーツクの開拓と近代化の真の姿が生々しく甦るのだと考えています。

※このクラウドファンディングは今回を第1弾とし、次年度以降4段にわたり実施いたします。皆様のご支援と、共に歩むパートナーとなって頂くことを心よりお願い申し上げます。

このクラウドファンディングはこちらから

<https://readyfor.jp/projects/orhps1>

寄付その他のお問合せ・お申し込みは

NPO 法人オホーツク鉄道歴史保存会 理事長 長南進一 090-9524-9315 info@orhps.org